

みのEDO

発行：多治見市美濃焼タイル振興協議会
TEL 0572-43-2141
発信：多治見市・笠原町東京情報局
TEL 03-5225-6863

◆タイルフェアレポート◆

きらびやかなテーブルウェアの世界にタイルアートの魅力再発見！

テーブルウェア・フェスティバル 2013 ～暮らしを彩る器展



オープニングセレモニー

世界から、そして日本各地からさまざまな器を一堂に集め、食生活文化ならびにテーブルウェア文化の向上をテーマにした生活提案型文化催事として、今回で 21 回目を迎えた「テーブルウェア・フェスティバル 2013 ～暮らしを彩る器展」が、先ごろ 2 月 4 日（月）～ 11（月）まで東京ドームで開催され、8 日間で 30 万人を超える来場者を集めて盛況のうちに幕を閉じた。その華やかな催事の話から、焼物とタイル関連のトピックスを紹介する。

主催、後援、協力等は、別記のとおり。

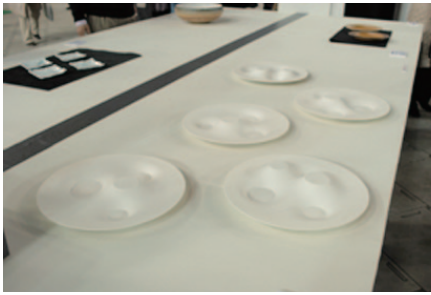
主 催：テーブルウェア・フェスティバル実行委員会（読売新聞社、株式会社東京ドーム）

後 援：経済産業省、フランス大使館、東京都、滋賀県、甲賀市、NHK、公益社団法人日本陶磁協会、読売光と愛の事業団、NHK厚生文化事業団、NPO法人食空間コーディネイト協会、文化放送

特別協力：東日本旅客鉄道株式会社

協 力：山形県、佐賀県、長崎県、鹿児島県、瀬戸市、多治見市、土岐市、常滑市、輪島市、有田町、波佐見町、青森県漆器協同組合連合会、信楽焼振興協議会、瀬戸焼振興協会、波佐見焼振興会、肥前陶磁器商工協同組合、山中木製漆器協同組合、輪島漆器商工業協同組合、東日本料理学校協会、公益社団法人鹿児島県特産品協会、社団法人全国調理師養成施設協会、社団法人日本クラフトデザイン協会、一般社団法人日本ソムリエ協会、公益財団法人平山郁夫シルクロード美術館、NPO法人山形県デザインネットワーク、東京都クリーニング生活衛生同業組合、銀座 黒田陶苑、日本通運株式会社、お花がかり有限責任事業組合

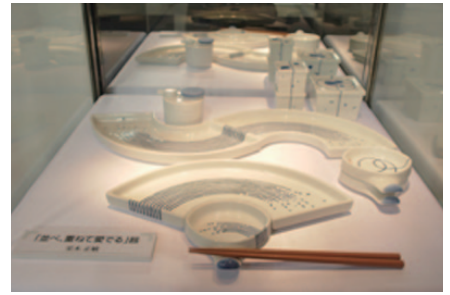
企画運営：株式会社東京ドーム、株式会社ジェイアール東日本企画、株式会社NHKアート



〈部門1：テーブルウェア・オリジナルデザイン部門〉
大賞・経済産業大臣賞：柳井友一氏（石川県）
『Crater Dish（クレーター・ディッシュ）』



〈部門2：テーブルウェア・コーディネート部門〉
大賞・経済産業大臣賞：橋本尚子氏（東京都）
『金婚式～桜とフレンチのマリアージュ～春』



審査員特別展示 栄木正敏氏
『「並べ、重ねて愛でる」器』



〈部門1：テーブルウェア・オリジナルデザイン部門〉
東京都知事賞・最優秀賞：吉田宏之氏（石川県）
『櫛（ケヤキ） ひねり鉢』



「2012 年最優秀受章者コラボレーション展示」



栄木正敏氏『「石清水」カップと花器』

オープニングセレモニーで大賞を発表！

「テーブルウェア・フェスティバル」は、彩りや潤いのあるライフスタイルの楽しみ方を提案する“器の祭典”として、上質な暮らしを求める来場者（圧倒的に女性）が多いことも大きな特徴となっているが、開会前日の2月3日（日）午後3時よりオープニングセレモニーが開催され、「第21回テーブルウェア大賞～優しい食空間コンテスト」の入賞作品発表と表彰式が行なわれた。

セレモニーでは始めに実行委員会会長を務める株式会社東京ドームの代表取締役社長・久代信次氏が主催者挨拶を述べ、今年のコンテストの開催概要が紹介された後、次の各部門における大賞および最優秀奨励賞・東京都知

事賞・各賞が選出され、大賞と都知事賞の表彰が行なわれた（応募総数 2104 点）。

最後に審査委員長を務める陶芸家の曾田雄亮氏が大賞・最優秀賞作品のすばらしさを称えた審査講評を語って終了した。

【主な受賞作品】

〈部門1：テーブルウェア・オリジナルデザイン部門〉

■大賞・経済産業大臣賞：柳井友一氏（石川県）『Crater Dish（クレーター・ディッシュ）』

東京都知事賞・最優秀賞：吉田宏之氏（石川県）『櫛（ケヤキ）ひねり鉢』

〈部門2：テーブルウェア・コーディネート部門〉

■大賞・経済産業大臣賞：橋本尚子氏（東京都）『金婚式～桜とフレンチのマリアージュ～春』

東京都知事賞・最優秀賞：千代間みゆき氏（埼玉県）『自然とめぐみに育まれ～親子クッキング・友情のランチ～／夏』



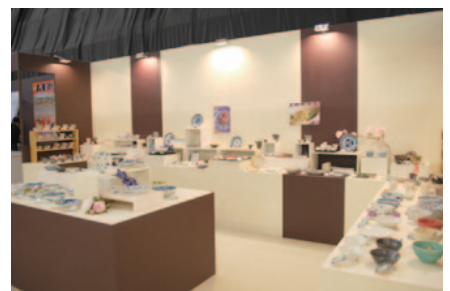
〈美濃焼 多治見市〉陶板画



〈美濃焼 多治見市〉ブース



〈美濃焼 多治見市〉テーブルセッティング



〈美濃焼 多治見市〉展示風景



〈美濃焼 土岐市〉ブース



〈美濃焼 土岐市〉至福どんぶり



〈笠原陶磁器工業協同組合〉



〈笠原陶磁器工業協同組合〉
「(仮) 日本タイル館」オープンのポスター



〈美濃焼 土岐市〉土岐の女子力
「はなまるの器」

魅力のテーブルウェア

そのほかテーブルウェアの展示では、審査委員長も絶賛していた「2012年最優秀受章者コラボレーション展示」や審査員特別展示に出品された審査員・柴木正敏氏（セラミックデザイナー／瀬戸市在住）の瑞々しい作品に魅了された。

日本の器を訪ねて

漆、陶器、磁器など日本の伝統と美と技を一堂に会し、現代生活にも合う上質で趣きのある和の食空間を提案する「日本の器を訪ねて」では全国の焼物産地の産業組合から9団体が出展していたが、わが美濃焼の里からは2団体が花のあるテーブルセッティングを印象づけながら、個性ある展示を繰り広げていた。また、隣接した展示販売コーナーでは、〈笠原陶磁器工業協同組合〉〈美濃匠の会〉〈みずなみ焼（岐阜県）〉〈みずなみ焼（岐阜県）〉〈土岐市の美濃焼〉などの出展ブースが、美濃の焼物の魅力を強力にアピールしていた。

〈美濃焼 多治見市〉

美濃焼の里・岐阜県多治見市。ここで作られる陶磁器は日本人の日常に深く溶け込んでいる。家庭での普段使い

から飲食店の様々な用途に対応した器など、幅広くご提供する。また今回は特に、手づくり品に焦点をあて、作家もの・窯ものを充実させたブース構成となっている。

〈美濃焼 土岐市〉

手になじむ究極の形を追求し、装飾技法で個性を表現した「和み」シリーズ、昨年好評をいただいた多用途でスタイリッシュな「きずな丼」を中心に、洗練された器を厳選ラインナップ。今回はワンランク上の“美濃焼土岐市”を百撰流に表現した。

展示販売コーナーから 陶板画・タイルアート

海外・国内陶磁器及びテーブルウェア関連商品の販売コーナーでは、個性ある250以上の販売ブースが出展し、企業の新商品や提案商品、産地の窯元や作家の作品などを直接購入することができる。

その各地伝来の窯元や作家が直接出店する「展示販売コーナー」から、美濃焼関係の展示販売ブースをはじめ、見ごたえのあるタイルアートや陶板画など妙なる焼きものの味わいをご紹介します。

〈幸兵衛窯〉美濃焼 岐阜県多治見市

幸兵衛窯は1804年（文化1）、初代加藤幸兵衛により開



〈美濃匠の会〉



〈みずなみ焼〉



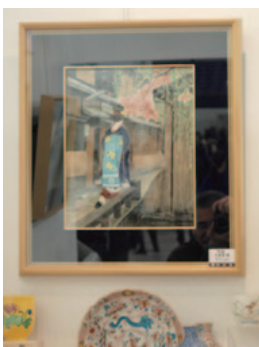
〈みずなみ焼 陶〉



〈土岐市の美濃焼〉



〈幸兵衛窯〉



〈京・清水焼 朝日堂〉京焼作家・松崎妙鳳



〈京・清水焼 朝日堂〉
京焼・陶泉窯

窯され、まもなく江戸城に染付食器を納める御用窯となる。流麗精緻な染付の優品を手がけた二代、中国宣徳染付の研究に没頭した三代、名人気質の四代のあとを受けた五代幸兵衛（1893～1982）は、青磁、金襴手、赤絵、天目など中国陶磁をはじめ幅広い技法を駆使し、現在の幸兵衛窯の基礎を築き上げた。六代の加藤卓男は古代ペルシャ陶器の斬新な色彩や独創的な造形、釉調を研究して名陶ラスター彩の復元をはじめ日本文化との融合に成功し、人間国宝に認定された。現在は七代幸兵衛が、受け継いだ豊かな色彩や技法で品格ある和食器を制作する。

〈京・清水焼 朝日堂〉

京焼・清水焼は、中国や朝鮮から伝えられた三彩、青磁、青華、赤絵をふまえて発展し、野々村仁清や尾形乾山などの陶工を輩出した。朝日堂は明治3年創業の清水寺門前の陶器商。

京焼作家・松崎妙鳳；京焼の伝統技法「一珍」（イチチン / スポイト状の容器に入れた泥漿を絞り出し、絵の輪郭にあたる線を盛ってゆく技法）を施した素地に「交趾釉」

で色鮮やかに京都の風景を描く。絶妙なグラデーションと焼き物だからこそ可能な立体感、油彩のような奥深い色彩は作者の技術と経験、長年の研究により生み出された独特のもの。

京焼・陶泉窯（工房主 谷口哲也）；陶泉窯の特色は下絵付けの技術にあり、上絵付けほどの繊細さと色の鮮やかさはないが、焼き物ならではの柔らかい色合いと温かさに特徴がある。

〈辻修窯〉有田焼 佐賀県武雄市

祖父の代から有田焼の上絵付け師の家に育った辻修は、絵付けだけにとどまらず自らの手で焼き物づくりを始めようと京都で清水焼を学ぶ。そこで出会った陶芸家の前衛的な発想、作品に大きな影響を受け、それが深海を思わせる藍色という斬新な作風の原点となっている。22年前に独立、黒髪山の中腹、乳待坊が目に見える場所に窯を移す。

〈伊万里・鍋島焼 虎仙窯〉佐賀県伊万里市

伊万里・焼鍋島焼の窯元・虎仙窯は、その歴史、伝統、



〈辻修窯〉有田焼





〈伊万里・鍋島焼 虎仙窯〉



〈九谷焼 五彩堂〉
中村陶志人「福雀」



〈伊万里・鍋島焼 青山窯〉



〈波佐見焼 藍水 (らんすい)〉



〈九谷焼 五彩堂〉
作田花仙「本金盛割取小紋」

技術を守り、手仕事・手描きによる鍋島を造り上げつつ、品質、機能性、安全性を求め新たな鍋島の創造をめざす。色鍋島・鍋島青磁・鍋島染付があり、現・川副虎仙の祖は代々御細工場（鍋島藩窯仕事場）で青磁の製作と絵描きの用命を承っていた家系で、当代は特に青磁焼成の近代化研究に没頭し苦心の結果、中国・朝鮮の製品や藩窯時代の作品に比して何ら遜色のない優秀鍋島青磁を焼き上げている。（伝統工芸士・青島妙子）

〈伊万里鍋島焼 青山窯〉 佐賀県伊万里市

青山窯では、独自の技術や代々伝わる絵柄を頑固に守りながら、鍋島藩最盛期に作成された古陶磁器を当時と同様の原材料を用い、手作り・手描きで忠実に再現。伊万里鍋島焼の原点を探り新しい作品づくりに生かす。また、伝統的技法をベースに新しい伊万里鍋島焼の創作にもチャレンジ。美術装飾品や高級食器、日用食器に限らず、さらに室内装飾など新しい分野にも積極的に挑む陶芸窯として、伊万里鍋島焼の可能性を追求している。

〈波佐見焼 藍水 (らんすい)〉 長崎県波佐見町

自然の温もりを大切に、共に暮らす人々との調和の役割ができたかと、そんな思いを込めて野の草花をモチーフにしたデザインを中心に、やさしい色使いと筆のタッチでぬくもりのある器を揃えている。（陶芸家・藤川法男）

〈もぐら窯〉 長崎県川棚町

もぐら窯は、若い女性陶芸家・画家の西 美紀と双子兄弟創作ブランド「ふたごモグラ」の作家が作陶する工房で、もぐら窯ギャラリーはそれらの個性豊かな陶芸作品を展示販売する、アートショップとなっている。絵付けも「自由気ままに、心のままに」をモットーにその時々イン

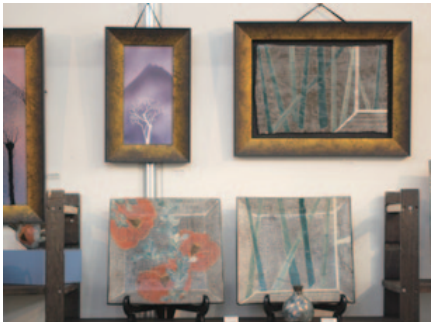


〈もぐら窯〉 ふたごモグラ



〈もぐら窯〉 西 美紀





〈美野里焼〉小黒陶三



〈キッチンワールド成城〉
ジアレッティ・ギウリオの陶板画



〈GIRASOLE ジラソーレ〉
CERAMICA DE SIMONE

スピレーションによる手描きで、絵画のような器や陶板画などを制作する。

〈九谷焼 五彩堂〉石川県

中村陶志人；久谷の伝統工芸士・作家である中村陶志人は、古来よりその愛くるしいまなざしや表情、しぐさは人の心を優しくいやすといわれる雀たちを見事に再現し、一つひとつ手描きにこだわった作品として美しい九谷素地に描く。

作田花仙；金細工の器を思わせるような豪奢で奥深い輝きをはなつ作品は「本金盛割取小紋」と称され、「盛金技法」という重ね塗り、重ね焼きの特殊な技法による。その高度な技巧を要する技法は、明治・大正期に九谷焼が「ジャパン九谷」として世界的ブームをよんだ時代、当時の九谷を代表する名匠・清水美山によって創出され、花仙によって現代に継承される。

〈美野里焼〉新潟県

陶芸家・小黒陶三が平成4年に開窯、窯名は茨城県にあった〈美野里町〉から命名されたという。手すき越前和紙の楮（こうぞ）の繊維と厚みを活かし、和紙に下絵具で彩色貼り付け施釉後1200℃で焼成、軽く強度を持たせた初の技法（特許）による。和紙の繊維を押し付けた網目紋様が独特の気品をもたらしている。和紙に粘土をしみこませ成型したもので、和紙の風合いと軽さを感じさせるとともに、陶磁器としての強度ももつ。

〈キッチンワールド成城〉

ジアレッティ・ギウリオの陶板画；イタリア中央部の歴史ある美しい街ペルージャの南《デルータ》では、昔か

ら良質の粘土が取れることから中世より陶器作りが盛んでルネサンス期には素晴らしい美術品で名を馳せた。そのルネサンス期のデザインに、ギリシャ・ローマ時代の古典的スタイルを取り入れた美術陶芸工房【ジアレッティ・ギウリオ】の陶板画は、熟練のマエストロにより一つ一つ丁寧に描かれた芸術品で、その品質の高さと絶妙な色合いを楽しむことができる。（世界の雑貨を直輸入、販売する〈キッチンワールド成城〉）

〈GIRASOLE ジラソーレ〉

CERAMICA DE SIMONE；多彩な画家・陶芸家・料理研究家としてイタリアで活躍したデ・シモーネは、シチリア島で生まれファエンツァ陶芸学校で学び、地中海に輝く太陽の恵みとシチリア島の伝統的な暮らしを、鮮やかな色とシンプルな線を使って表現し世界中にファンをもつという。（シチリア陶器とこだわりのイタリア食材の店〈GIRASOLE〉）

■「テーブルウェア・フェスティバル」問合せ先

東京ドームシティわくわくダイヤル TEL03-5800-9999
<http://www.tokyo-dome.co.jp/tableware/>

おめでとうございます

(株)カネキ製陶所 代表取締役・宮川憲太郎氏、藍綬褒章を受章！



宮川氏ご夫妻



記念祝賀会

現在、全国タイル工業組合の理事長を務め、笠原陶磁器工業協同組合の理事長も歴任されました、宮川憲太郎氏（株）カネキ製陶所 代表取締役会長）が平成 24 年秋の叙勲・褒章におきまして藍綬褒章を受章いたしました。ここに謹んでお祝い申し上げ、多年にわたりタイル製造業に携わり、業界の発展に寄与された事績をご紹介します（別掲）。真におめでとうございます。

また受章を記念して、全国タイル工業組合ならびに笠原陶磁器工業協同組合主催のもと、さる 1 月 23 日には岐阜県多治見市の多治見市産業文化センターにて、受章記念祝賀会が盛大に開催されました。

当日は、地元出身の古屋国務大臣（代理出席：弓子夫人）、古川多治見市長を始め、政界・業界関係から来賓がご臨席されたほか、業界関係者、友人など、150 名におよぶご出席がありました。



記念祝賀会のもよう

【宮川憲太郎氏 略歴】

〈履歴〉

昭和 40 年 2 月	南山大学経済学部卒業
昭和 40 年 2 月	(株)カネキ製陶所 入社
昭和 44 年 10 月	(株)カネキ製陶所 取締役
平成 6 年 1 月	同上 代表取締役社長
平成 23 年 1 月	同上 代表取締役会長

〈団体歴〉

昭和 62 年 5 月	全国モザイクタイル工業組合 理事
	笠原陶磁器工業協同組合 理事
平成 4 年 4 月	東濃可児雇用開発協議会 理事
平成 7 年 6 月	笠原陶磁器工業協同組合 副理事長
平成 9 年 5 月	日本陶磁器工業協同組合連合会 理事
	岐阜県陶磁器工業協同組合連合会 副理事長
	(株)多治見法人会 理事
平成 9 年 6 月	岐阜県産業保健センター 理事
	笠原陶磁器工業協同組合 理事長
平成 10 年 5 月	(財)全国タイル検査・技術協会 理事
平成 11 年 5 月	全国モザイクタイル工業組合 副理事長
平成 11 年 6 月	岐阜県産業保健センター 副理事長
平成 11 年 7 月	日本陶業連盟 理事
平成 12 年 8 月	全国タイル工業組合 副理事長
平成 15 年 5 月	(株)多治見法人会 副会長
平成 15 年 6 月	岐阜県陶磁器産業連盟 副会長
	(株)岐阜県工業会 理事
平成 16 年 5 月	(財)全国タイル検査・技術協会 副理事長
	岐阜県中小企業団体中央会 理事
平成 16 年 6 月	(株)岐阜県経営者協会多治見支部 支部長
	(株)岐阜県経営者協会 副会長
平成 20 年 4 月	(公財)岐阜県産業経済振興センター 理事
平成 20 年 6 月	クールアイランドタイル振興会 会長
平成 21 年 6 月	岐阜県研究開発財団 委員
平成 24 年 5 月	全国タイル工業組合 理事長
平成 24 年 7 月	日本陶業連盟 副会長